

自薦句

令和六年四月〜令和七年三月の代表作を紹介します。

- ・雨粒の光りてみたり蓮若葉  
廣崎龍哉
- ・百幹の生生として竹の春  
石崎玄舟
- ・山間の小さき棚田や豊の秋  
大場繁好
- ・花房に雨のしたたる馬酔木かな  
各務きよし
- ・青柿や若き教師の理想論  
島村忠男
- ・元旦の箸の長短四世代  
杉村良月
- ・雖の家所言葉の爺と婆  
高橋尤子
- ・梅雨晴れに並ぶ肌着の白さかな  
二山たか志
- ・干支の蛇置かれし居間にお年玉  
桧垣邦夫
- ・観梅やもつれし足のもどかしさ  
増田かつを
- ・ごみの日と尻たたかるる四日かな  
宮澤 進
- ・青梅のほんのり赤み差してをり  
安田けんじ
- ・闇空をあかつきに染め初日の出  
山口一江
- ・雪解けやトロッコで行く発電所  
渡部よしまさ